

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年3月16日

事業所名 伊東市立さくら園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	3	・保育室として利用できる部屋が広いので時折パーテーションや視覚的に工夫をし使用している。 ・重度の障害を持つ子のスペース確保が難しく、寝ている子の周りを歩くこともあるので気を配っている。	・医療ケアの児と活動の激しい児が同じスペースにいて危険なため、部屋を分けて保育する必要がある。
	2	職員の配置数は適切である	4	4	・毎朝ミーティングを行い、当日の職員の対応の確認を行っている。	・職員配置は適切であるが、運営面だけでなく児童の障害等に合わせて、安全でより良い支援ができる人員配置が望ましい。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	4	・間仕切りを置いてコーナーを作り、個別の活動に落ち着いて取り組めるようにしている。 ・児童ごとに決まってマークを貼り、ロッカー、下駄箱などの自分のスペースがわかりやすいようにしている。	・部屋の数が少なく落ち着いたスペース等を確保することは難しく、また建物の構造上、完全にバリアフリー化されていないので、わかりやすい指示や表示等、工夫している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	1	・活動により机の出し入れ、遊具等の移動を行ない過ごしやすい環境を整えている。	・清潔ではあるが、建物の構造上、医療ケア児専用のスペースや食事、クールダウンのためのスペースを個別に確保することは難しいため、工夫して対応する。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8		・行事について毎回反省を行ない、次回に繋げている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		・行事ごとアンケートを保護者に実施し、意見なども取り入れるようにしている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8			・自己評価の公表だけでなく、さくら園の活動内容についてもホームページで掲載する。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	3		・外部評価はまだ行っておらず、今後早急に検討していきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1	・園独自ではティーチャーズトレーニングを行った。個々で研修も参加している。	・他の児童発達支援事業所の視察や、意見交換による資質向上も検討したい。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	1	専門職による助言や評価も受けている。	・アセスメントの方法、ニーズや課題の客観的な分析の方法について事業所として検討しながら適切に改善していきたい。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	4		・客観的共通した評価、認識により支援が行えるよう、アセスメントツールの選定、導入についても検討していきたい。

適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	1	・支援計画の書式を見直し、3か月ごとに保護者と面談し、スタッフも振り返りやケース会議等を行っている。	・ガイドラインの理解と周知については、職員会議などで定期的に確認していく必要がある。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	1	・月1回のケース会議で支援について話し合いを行なう。	・支援の進捗状況や達成度等、情報を共有してより良い方法を検討していきたい。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		・日々のミーティング、職員会議、ケース会議等で確認している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		・季節ごとの行事や、併設されている保育園との交流等を取り入れて実施している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	1		・保育園と隣接しているため、合同の行事や日々の関わりの中で集団生活を考慮している。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		・朝ミーティングで確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1	・担任同士で日々行うことはできている。	・日々の振り返りの時間がなかなか持たないので、週1回でも話ができるよう工夫していきたい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		・毎日視診表にその日の活動、個々の様子などを記録し保護者にも見ってもらうようにした。	・期ごとに個別支援計画の評価をしているので、その評価も支援の課題としてつなげられるようにしていきたい。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8		・モニタリングの時の状況に合わせて、支援計画の見直しができている。	
	関係機関	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	1	
22		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8			・保健師等と連携を取り、より良い支援が行なえるようにしていく。
23		（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	8			・重心部会、児童部会等で、ケースを検討したり個別ケース会議を開き方向性等を話し合っている。
24		（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	8		・不定期だが、医療機関との連携をとるためにケース会議を開いている。	
25		移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	1	・移行該当児がいないため、情報共有は行っていない。療育教室の対象児については情報共有は行っている。	・各機関との情報共有や相互理解については検討する余地がある。

関 や 保 護 者 と の 連 携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		・就学に向けて学校見学、体験等の調整や同行を行なっている。就学先決定後は情報提供により共有を行なっている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1		・児童発達支援の部会などの必要性は感じる。顔の見える関係づくりを築くことはできている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	8		・本事業所は保育園に併設されており、行事を含め日常の交流を多く持ち、刺激を受け生活することができる。	
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	8		・自立支援協議会児童部会に参加し、他機関との情報交換を行なう機会を持っている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		・日々の送迎時に、報告や聞き取りなどを行なっている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	7	1		・父母の会の他に、年3回父母学びをおこなっているが、ペアレントトレーニングの支援はまだ実施されていないので、今後計画していきたい。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			・利用開始時に書面及び口頭にて説明を行なっている。よりわかりやすく説明できるよう随時配慮していきたい。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8		・支援計画については、保護者との面談で一緒に作成し、共有している。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8			・随時対応なので、悩みや心配なことが埋もれてしまわないように対応していく必要がある。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8		・父母会のほか、父母学びの場を設けている。保護者が知りたい内容を取り上げたり父母の交流の場となっている。	・就労している保護者も増加しており、全員が集まる機会を多く持つことは難しい。行事などで保護者同士の連携の場を確保するなど工夫が必要。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8		・相談の内容に応じた職員が対応し、必要であれば他機関との連携をとっている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		・毎月園だより、クラスだよりを発行している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8		・書類の保管は施錠可能な場所で行っている。	・市の担当課と協議しながら適切な取り扱いを行っていく。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		・ひとつひとつ丁寧な声かけや必要な配慮を行なっている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている	6	2		・地域住民とのかかわりは特になく、年に1回の市内老人運動会に参加するくらいである。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	1	・隣接保育園と協同で緊急時対応、防犯マニュアルについて訓練を行っている。また、所属看護師の指導のもと職員全員を対象に感染症対応の園内研修を行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		・隣接保育園と協同で毎月1～2回の訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8		・入所面接の際常勤配置の看護師が対応を行っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8			・現在はいないが、対象児がいる場合は各機関連携の上対応を行なう。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		・ヒヤリハット報告書を作成し、定期的に職員で確認している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	1		・研修会等に積極的に参加できるようにしていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	3		・保護者に同意は得ているが、今後計画書にも記載していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。